

令和元年7月2日現在

機関番号：27301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2017～2018

課題番号：17H07045

研究課題名(和文)次世代型地域包括ケアを先導する看護学教育確立のためのニーズ解析とカリキュラム開発

研究課題名(英文)Needs analysis and curriculum development for establishing nursing education to lead next-generation regional comprehensive care

研究代表者

坂本 仁美 (SAKAMOTO, Hitomi)

長崎県立大学・看護栄養学部・助教

研究者番号：30574339

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、地域包括ケアを体系的、継続的、段階的に学習できるカリキュラムの開発を目指し、早期体験学習の現状と課題、看護基礎教育課程へのニーズを明らかにすることを目的に実施した。早期体験学習は、「病院での看護」に焦点が当てられており、地域包括ケアを中心に実施されているカリキュラムはなかった。また、インタビュー調査から、基礎教育課程において、早期から地域をスタートとする視点を養うことの必要性が明らかとなった。看護基礎教育課程へのニーズとしては、【コミュニケーションを用いた患者との関わり・人間関係の構築】、【医療職・看護職者としての態度】の育成が重要であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、早期から看護職者の視点で地域包括ケアに関心を持ち、入学早期から地域包括ケアを体系的、継続的、段階的に学習することを目標に、早期体験学習に焦点を当て、カリキュラムの現状と課題を明らかにした。これらの結果は、地域の実情に合わせた次世代型地域包括ケアシステムの構築を实践できる人材育成のための基礎資料となるものであり、看護基礎教育課程へのニーズ調査の結果は、地域医療環境の強化に貢献できる次世代型地域包括ケアを先導できる看護職養成カリキュラムの開発につながる事ができる。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to develop a curriculum that can learn Community based integrated care systematically, continuously and gradually, and was conducted to clarify the current situation and issues of early experiential learning and the need for nursing basic curriculum. Early experiential learning was focused on "hospital nursing" and there was no curriculum centered on regional comprehensive care. In addition, it became clear from the interview survey that in the basic curriculum, it is necessary to develop a perspective to start from an early stage. As the needs for the basic nursing curriculum, it was suggested that it is important to foster the development of relationships and relationships with patients using communication and attitudes as medical and nursing personnel.

研究分野：看護教育学

キーワード：地域包括ケア 看護基礎教育

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

わが国は、2007年に超高齢社会に突入し2015年に高齢化率は26.7%¹⁾と世界でも類を見ない進行の速さで高齢化が進んでいる。この人口動態の変化に伴い医療需要も変化し急性期医療のニーズが急速に減少する一方、地域に拡大する在宅医療・介護へのニーズに対応する体制を整備する必要がある。そこで、国は地域における医療・介護・福祉の一体的提供(地域包括ケア)の実現に向け、2008年に厚生労働省老人保健健康増進事業の一環として「地域包括ケア研究会」を発足させ、地域包括ケアを支えるシステムと人材の観点から議論してきた。そして、2025年問題まで8年を切った現在、具体的施策として自治体ごとに地域包括ケアシステムの構築を進めるために「地域マネジメント」の実践を掲げている。しかし、地域の実情に合わせた地域包括ケアシステムの構築は円滑には進んでおらず自治体主導の取り組みには「システム」、「人材」の両面から多くの課題が挙げられている。医療は、独立して機能するものではなく生活と有機的に連動しており、住民、患者、ステークホルダー(大学の利害関係者)と共同しながら地域包括ケアシステム構築のビジョンを持ち、地域全体で医療におかれるパラダイムシフトを推し進めることが重要である。このため、厚生労働省が「保健医療2035提言書」²⁾を公表し、多様な疾患を抱える患者に対して統合ケアの実現を進めるとともに、資格ごとの役割の重複を精査の上、一定の経験、研修により自分の専門性とは異なる他の関連職種の基本的業務もできるようにすることを求めている。特に、訪問看護領域については、医療の高度化に対応した業務を行うことができる優秀な人材の確保を進めることに加え、看護業務等の専門性を高めるとともに、業務の更なる拡張にも言及している。

これからの看護職は多様な患者の医療・生活ニーズに対応し、ますます多職種と協力・協働して地域包括ケアを行う必要がある。看護の専門性への意識が高まる中、医学教育は地域包括ケアの中で多職種と連携して幅広い視点で患者を診る「総合診療医」の育成を始めている。看護教育においても地域包括ケアシステムの中で活躍できる「総合看護師(ジェネラルナース)」の育成が必要になるのではないかとと思われる。しかし、そのような次世代型地域包括ケアを先導する看護学教育のカリキュラムは見当たらない。今後、看護職養成課程を持つ地域の大学では、地域特有の現状を鑑み、地域ニーズを取り入れた看護学教育のカリキュラム構築を志向することが重要である。

2. 研究の目的

本研究では、早期から看護職者の視点で地域包括ケアに関心を持ち、入学早期から地域包括ケアを体系的、継続的、段階的に学習することを目標に、早期体験学習に焦点を当て、現状と課題を明らかにする。地域の実情に合わせた次世代型地域包括ケアシステムの構築を實踐できる人材育成のために、カリキュラムの現状分析と、長崎県の地域産業を支えるステークホルダーの看護職養成に対するニーズを解析する。そして、長崎県に立脚する地域特有の問題点や必要とされる人材の特性を明確化した上で、地域医療環境の強化に貢献できる次世代型地域包括ケアを先導できる看護職養成カリキュラムの開発を目指す。

3. 研究の方法

第1段階：看護基礎教育課程での地域包括ケアに関する教育カリキュラムの現状分析のために、日本看護系大学協議会会員校277校を対象とし、基礎看護学教育課程の早期(低学年時)に地域包括ケアの視点を有した実習科目のシラバス調査を実施した。本研究での早期体験学習は、患者を受け持たず、大学以外の場で実施する必修科目の実習と定義し、到達目標(もしくは学習目標)について、Berelson,B.の内容分析の手法³⁾を参考に質的帰納的に分析した。さらに、シラバス調査の中から、先進的な取り組みをカリキュラムに組み込み実施している大学に対し、授業内容、運営、他学科との連携取り組み内容等の聞き取り調査を行った。

第2段階として、第1段階にて明らかとなった、現行のカリキュラム内容、加えて先進的な取り組みの内容を参考にインタビューフォームを作成し、地域包括ケアを実施している医療職を対象に、看護基礎教育課程へのニーズについて半構造化面接を行い、スペンサー⁴⁾のframework methodsを使用し分析した。

倫理的配慮

調査時の対象者の選定については、調査対象施設の部門の責任者もしくは協会等の事務局に許可を得る(所定の手続きを取る)とともに、調査対象者に対しては、研究の主旨と内容、調査の参加・拒否・中断の自由、匿名性の確保とプライバシーの保護についても文書と口頭にて事前に説明を行い、書面による同意を得た。なお、本研究は、研究代表者の所属組織の一般研究倫理委員会の承認を得て実施した。(承認番号:326)

4. 研究成果

1) 早期体験学習に該当する科目の学習内容についての調査

第1段階として、日本看護系大学協議会会員校277校を対象とし、基礎看護学教育課程の早期(低学年時)に地域包括ケアの視点を有した実習科目の調査を実施した。インターネットを介してシラバスが入手できたのは188校。うち早期体験学習に該当する実習科目の到達目標(学習目標)が検索できたのは72件であった。到達目標は693コードが抽出され、これらのコード

から、45 サブカテゴリ、14 カテゴリが形成された。14 カテゴリは【病院・病棟・病室の構造】、【病院・施設の機能と役割】、【患者の療養環境】、【患者の療養生活】、【患者・家族の特徴】、【患者の安全・安楽】、【病院における医療活動】、【コミュニケーションを用いた患者との関り・人間関係の構築】、【多職種連携・チーム医療】、【看護の個別性・必要性・継続性】、【看護ケアの実際】、【医療職・看護職者としての態度】、【看護のメタパラダイム】、【看護を学ぶ動機づけ】となり、病院を焦点に当てたカリキュラムであることが明らかとなった。さらに、選択科目として先進的な取り組みをカリキュラムに組み込み実施している大学が複数存在し、その授業内容、運営、他学科との連携取り組み内容等の聞き取り調査を行い、14 カテゴリの信頼性を得た。コードについて教育目標の分類 Behavioral Verbs Appropriate for Each Level of the Three Taxonomies に当てはめたところ、認知領域の学修目標が大半を占めた。なお、早期体験学習として必修科目の中で地域包括ケアの視点を養うカリキュラムの展開を実施している授業科目は1件もなかった。

2) 看護基礎教育課程へのニーズについての調査

第2段階として、第1段階の結果をもとに「地域包括ケアの中で看護師が活躍するための基礎教育」をテーマにインタビューガイドを作成し、本学の看護職養成課程の臨地実習施設の教育師長、訪問看護ステーションの看護師4名に対して調査を行い、14カテゴリを配置した framework matrix に共通するカテゴリに分類したところ、【コミュニケーションを用いた患者との関り・人間関係の構築】、【医療職・看護職者としての態度】についてデータが多く抽出され、さらに【地域を始点とした看護ケア】が新たにカテゴリとして抽出された。【地域を視点とした看護ケア】では、病院実習での学習の際に、病院をスタートとして在宅に帰るという発想ではなく、在宅を始点として病院にて治療・ケアを受け、在宅に帰るという視点をもつことの重要性や、看護学概論等の低学年時の専門基礎科目において、看護ケアの場について、広い視点で捉えること、病院は患者の療養の場の1つに過ぎず、生活・くらしの全体をアセスメントする必要性が上げられ、これらの学修には、看護基礎教育課程早期からの地域包括ケアの視点が重要であることが示唆された。加えて、インタビュー項目の「地域包括ケアにおいて看護の役割を發揮する能力」については「地域包括ケアにおける看護の役割」の定義が曖昧であることから、明確な回答が得られなかった。

3) まとめ

本研究は、地域包括ケアを体系的、継続的、段階的に学習できるカリキュラムの開発を目指し、早期体験学習の現状と課題、看護基礎教育課程へのニーズを明らかにすることを目的に実施した。早期体験学習は、「病院での看護」に焦点が当てられ、地域包括ケアを中心に実施されている実習はなかった。また、基礎教育課程において、早期から地域をスタートとする視点を養うことの必要性が明らかとなった。基礎教育課程へのニーズとしては、【コミュニケーションを用いた患者との関り・人間関係の構築】、【医療職・看護職者としての態度】の育成が重要であることが示唆された。看護学学士課程において、コアとなる看護実践能力の修得を目指した学修目標を提示した「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」が平成29年10月に公表され、基盤となる能力を培う看護基礎教育が注目されている。「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」では、「地域包括ケアにおける看護実践」が項目立てされており、様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々を対象に、多職種と連携し、「地域包括ケアにおいて看護の役割を發揮する能力」を身につけることをねらいとしている。しかし、本調査によって、「地域包括ケアにおいて看護の役割を發揮する能力」の抽象度が高く、構成要素が曖昧であることが明らかとなった。そこで、次研究「看護学学士課程における地域包括ケアを内包したコンピテンシー学習成果指標の開発」では、「地域包括ケアにおいて看護の役割を發揮する能力」について、概念分析の手法を用い、国内外の文献検討を通して定義と属性、要素と構造を明らかにする。また、本研究の成果を活かし、地域志向型ケアの側面から、地域特性・資源に焦点を置き地域包括ケアコンピテンシーの構成要素となる因子を抽出し、地域包括ケアのコンピテンシーモデルの作成につなげる。

< 引用文献 >

- 1) 内閣府(2016):平成28年版高齢社会白書
- 2) 厚生労働省(2015):保健医療2035提言書
- 3) 舟島なをみ(2017):質的研究への挑戦-第2版-,51-78,医学書院
- 4) ライル・M. スペンサー(2011):コンピテンシー・マネジメントの展開,11,生産性出版

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計0件)

〔学会発表〕(計1件)

基礎看護教育課程における早期体験学習の現状と課題 次世代型地域包括ケアのカリキュラム
開発に向けて , 第39回日本看護科学学会, 石川

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。